

「小郡市食料・農業・農村基本計画」に則った 平成27年度事業報告〈概要版〉

〈「農業」の部〉

1 多様な担い手の育成・確保

(1) 認定農業者等の担い手の育成・確保

○人・農地プランの展開

人・農地プランの改訂（1/5公表）

○研修会の開催

① 雇用型経営研修会、企業的農業経営研修会

② 集落営農組織の法人化に向けた研修会

③ 三井地区雇用型農業経営研修会

④ 小郡市「食」と「農」を考える講演会（認定農業者の会共催）

(2) 収益性の高い農合経営の確立、競争力のある産地の育成

○若年農業者の団体への活動支援

① 4Hクラブ

保育園での餅つき



② 三井植木研究会

いもの定植



(3) 女性・高齢農業者等の多様な担い手への支援

○女性農業者への支援（研修等）

① 経営発展講座

② ふくおか農業女性起業家育成塾

③ 経営ビジョン策定研修

④ 女性経営セミナー

第1回「土壌分析の方法と結果の見方」

「安定出荷のための環境測定」

第2回「上手な農業経営のヒントと安全・安心への取組」

第3回 視察研修：(株)福岡中央青果VCセンター、
グリーンベジタ、道の駅むなかた

⑤ パートナー研修会

先進地視察

中村学園大学（甲斐学長の講演）、三宅牧場まきば



〈甲斐学長の講演〉

○女性農業者への支援（女性リーダー育成）

- ① 福岡県女性農村アドバイザー
 - ・ 女性農村アドバイザー全員会議・OBとの交流会
 - ・ 久留米地域普及事業推進会議
 - ・ 先進地視察研修：松木果樹園（みやこ町）、赤村特産物センター
 - ・ 三井地区新規就農者の集い
 - ・ 女性農業者の大活躍大会2015
 - ・ 女性農村アドバイザー表彰・認定式

2 収益性の高い農業経営の確立、競争力のある産地の育成

（1）収益性が高く安定的な農業経営の確立と地域農業の維持確保

○補助事業の活用

- ① 水田農業担い手機械導入支援事業（県）
 - ・ 米・麦・大豆用の機械を導入する際に支援できる事業
 - ・ 2件（トラクターやロータリー等）
- ② 活力ある高収益型園芸産地育成事業（県）
 - ・ パイプハウス等施設や園芸用機械を導入する際に支援できる事業
 - ・ 10件（苺：1グループと1件、水菜：4件、小松菜：2件、チンゲン菜：2件）
- ③ 小郡市園芸施設等整備事業（市）
 - ・ 県事業の要件を満たすことが難しい農家に対する事業
 - ・ 7件（加温機、移植機、播種機、パイプハウス、トラクター等）
- ④ 小郡市畜産振興総合対策事業（県）
 - ・ 畜産関係の機械を導入する際に支援できる事業
 - ・ 3件（集草機、飼料切断機、飼料攪拌機）



○農地中間管理事業等の活用

- ・ 34名：196筆：295,605.55㎡

（2）産地銘柄の確立（ブランド化）と6次産業化の促進

○6次産業化の推進

- ⑤ 「三井地区農業振興大会」開催
 - 講演「地元産農産物の可能性と未来への販路！！」
 - 講師：田中美智子氏
 - （株）トータルオフィス・タナカ代表取締役

平成27年度三井地区農業振興大会

大会スローガン

身近な変化で、さらなる農業振興を！

講演 「地元産農産物の可能性と未来への販路！！」

(株)トータルオフィス・タナカ 田中 美智子 氏

-講師プロフィール-

衣料品製造販売会社に営業職として入社。2年後には支店設立・支店運営・管理・人材育成業務に携わる。通信機器・医療保険などの企画営業・営業管理業務や大手料理教室の運営・企画に携わる。

2006年 オフィス・タナカ 営業支援事業 創業

2009年 株式会社トータルオフィス・タナカ 設立 代表取締役・就任

2015年 東京オフィス 開設



○教育機関等との連携

- ・「きなこ☆ぼうる」の作成、頒布、販売（平岡学園とJAみいと共同企画）



〈平岡学園の学園祭〉



〈きなこ☆ぼうる〉

4 環境保全型農業の推進と自然循環機能の維持

(1) 環境に配慮した農業生産の推進

○環境に配慮した農業

① 環境保全型農業

- ・4グループ（12件）、対象面積：4,973a
- ・取り組み内容：カバークロープ＋IPM、有機農業（2グループ）、堆肥の施用

② 「Autumn Festa in Ogori」において、環境保全型農業実施者が取組状況についてPR

カバークロープの作付け
5割低減の取組の前後のいずれかにカバークロープの作付けや堆肥を施用する取組
※ 支援の対象となるためには、堆肥のC/N比が10以上であること等の要件があります。

堆肥の施用
農地に還元されたカバークロープ（緑肥）や堆肥の一部が土壌有機炭素となり、土壌中に貯留され、地球温暖化防止に貢献します。

有機農業
化学肥料・化学合成農薬を使用しない取組

冬期湛水管理 **IPMを実施する取組**
※IPMとは、総合的病害虫・雑草管理のこと。病害虫の発生状況に応じて、天敵（生物的防除）等の防除方法を適切に組み合わせ、環境への負荷を低減しつつ、病害虫の発生を抑制する防除技術

地域特認取組（例）

農薬を使用しない又は低減することや、農薬の削減と冬期湛水等の水管理を組み合わせることで生物の個体数が増加することが報告されています。

〈農林水産省パンフレットより抜粋〉



〈環境保全型農業実施者のPR活動〉

○各種エコ農業の促進

- ・ふくおかエコ農産物認証制度の取得者 31戸、5,592a



福岡県広報部長 エコトン



〈農林水産省パンフレットより抜粋〉

(2) 自然循環機能の維持増進

○耕畜連携（30件）

畜産農家と耕作農家が協定を結び、水田で生産した飼料用作物を畜産農家に提供するとともに、家畜の堆肥を水田に還元し、土づくりを行う事業。



〈 耕畜連携 〉



〈 堆肥散布 〉